

平成18年度 第2回 芦屋市文化行政推進懇話会 会議要旨

日 時	平成18年7月8日(土) 10:00~12:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	<p>委員長 中川幾郎 委員 井垣貴子・植田勝博・駕海一吉・神棒眞一・久保田靖子 広瀬忠子・弘本由香里・山田崇雄</p> <p>山市長 近藤教育委員長・藤原教育長・麻木教育委員・三栖管理部長・ 車谷学校教育部長・三好美術博物館副館長</p> <p>事務局 松本社会教育部長・川崎社会教育部次長・白川市民センター長・ 長岡文化行政推進担当主査</p>
会議の公表	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開</p> <p><非公開・部分公開とした場合の理由></p>
傍聴者数	0 人

1 議題

- (1) 教育委員の意見(報告)
- (2) 芦屋ゆかりの文化人
- (3) 芦屋の文化について
 前回の意見要旨と芦屋ブランド
- (4) 次回について

2 懇話内容

上記の議題(1)について報告、(2)については事務局作成の資料を提示。
 (3)については前回の意見要旨の説明と各委員の意見交換を行い、以下の点について了承・確認した。

[主な内容等]

議題(1)は、芦屋市山芦屋町でのマンション建設予定地で発掘された水車場跡の保存に関してや、兵庫県指定史跡第1号である会下山遺跡発掘50周年記念事業等、文化財に関連してのまちづくりと景観についての教育委員の意見を報告。

議題(2)は、事務局作成の資料を提示し、文化人の定義とは?という提示もあったが、文化人にこだわらず、芦屋市の誇りとなるような人や、芦屋の市民社会をより活性化して下さる人など、もっと広義で捉えて、人名をあげる方が良いとの意見が出た。

議題(3)は、前回の意見要旨をふまえた上で、もう一度芦屋が選ぶべき文化のイメージ、あるいは文化の特性について意見交換を行い次のような意見が出た。

- ① ファッションに代表されるような、おしゃれでエレガントな成熟した文化が芦屋の付加価値の高い経済を醸成してくれる可能性がある。
- ② 芦屋は近代的なモダニズムのまちというだけでなく、遺跡や史跡、あるいは

過去に生み出された有名な文学作品や絵などで取り上げられ、またその作者達が愛した街であるというような、歴史の上に成り立つかぐわしい香りのようなものが大きな魅力であり、それを打ち出していくことが必要。

- ③ 芦屋が創ってきた「都市環境」自体が資産であり、良好な住環境が魅力であるので、それを保護していくためにも日本一厳しいマンション規制を打ち出した。
- ④ 「近代性」、「最先端」、「創造性」、「国際性」の4つがキーワード。
- ⑤ 敬語をはじめ、美しい言葉遣いや高い教養に芦屋の文化を感じる。
- ⑥ 「都市の力・魅力」とは、誰もが住みたい、住み続けたいと思う街、豊かに暮らすことができる街であることである。
- ⑦ 芦屋の生活文化に対する高い評価は、かつての良質なパトロン文化によるものであり、その遺産を支えてきた資産力が弱まってきている中で、遺産を食い潰すのではなく、正當に評価し、どういう仕組みで新たに支えるかが重要。豊かにすばらしく暮らすライフスタイルを支え、新たに創造的に創っていく仕組みを育てる必要がある。
- ⑧ 高度な市民文化を維持するためには非日常型の文化投資が必要

議題（４）は次回の予定，８月２２日（火）１５時３０分～１７時３０分で開催予定であることの連絡。

〔結論〕

全会一致で了承した。

以 上